

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット共通 1,2,3階)

事業所番号	2793000205		
法人名	株式会社カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから西淡路		
所在地	大阪市東淀川区西淡路4-18-21		
自己評価作成日	令和2年3月30日	評価結果市町村受理日	令和2年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和2年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が主体となった、ケアを行う事を大事にし、散歩や買い物、入所前からの嗜好品なども出来るだけ取り入れながら、楽しく生活頂けるように、取り組んでいます。  
 毎日の様子や体調の変化を職員は素早く気付けるようにし、かといって関わりすぎず距離をとりすぎず、こは今まで住み慣れた家と同じよう過ごせる生活の場であると思って頂けるように意識しています。  
 家族様とは信頼関係をしっかり築き、安心してお任せいただけるような施設づくりをしていきたいと思っています。  
 「出来る事」「出来ない事」を見極め、認知症介護について結果を求めすぎず、個々の意思を尊重しながら関わるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

カームネスライフ(株)については、京阪神で地域密着型施設を中心に多数の介護施設を開設されている。経営法人は、ここでの生活については、あくまでも「利用者主体」であり、その徹底のため、理念にも「職員にも信じあえる心の育成、広い知識と専門技術の提供、常に自己研鑽、地域社会への貢献」とある。場所的には新幹線や大阪メトロ御堂筋線の「新大阪駅」やJRの「東淀川駅」に近く、入居者本人や家族にとっては交通の便は良い。広い国道に面しているが周囲は住宅街やお店もあり、比較的閑静である。3ユニットで27名の入居者がおられるが、その平均年齢は85.5歳である。管理者を中心にあくまでも利用者主体の生活を重視し、入居者としては、ここが楽しい我家と感じて頂ける様にケアに頑張っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念が職員の共通の目標として意識付けられる様に、各フロアの見やすい所に掲示している。	当ホームの理念として、あくまで入居者が主体であり「心を許せる人間関係、安心できる場所作り、利用者の生活能力を引き出す、利用者も職員も同じ生活者として喜怒哀楽を共にする」と決め、玄関やユニットごとに張り出し、職員や入居者家族そして機会をみては近隣住民にも協力して頂くよう努力されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の盆踊りや、近くの事業所で行われたお祭りや餅つきに参加し、地域の方と交流する機会がある。	ホームは自治会に加入し、役員も兼ねている職員もいる。地域行事(お祭り、餅つき他)の案内も貰ってそれらに参加したり、ホームでも各種ボランティアを招聘したり 各種会館での行事等に参加している。当ホームでも定期的に行事等に開催している。何よりも「認知症」を理解して頂く様努力されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣関係各所にはパンフレットを配布して、認知症の支援についてお知らせしている。 入居者様が地域の行事に参加する事が、地域の方々への「認知症の理解」の発信になっていると思う。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様、出席者様には施設の現状を伝えたり、地域の取り組みや予定を情報交換する場となっている。家族様からの意見や要望は前向きに検討し、次の運営推進会で報告をおこなっている。	原則開催日を奇数月の最終水曜日と決め、行政からは地域包括支援センター、地域からは郵便局局長、民生委員そして利用者の家族が出席し、ホーム側からは管理者やケアマネジャーが出席し、ホームの状況や行事内容を紹介したり、外国籍の職員を紹介したりして色々なアドバイスや意見、要望を聞いている。議事録は全家族に送っている。	地域と直接話し合える大切な会議であり、自治会長あるいはそれに準ずる方、そしてお互いに情報交換して助け合う知見者(例えば近隣のグループホーム管理者等)の出席も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の方もおられるので、市町村との関わりは密である。(支援課の定期的な訪問もあり) 又事故報告や苦情報告の提出等で、必要に応じて連携を図っている。	生活保護を受けておられる利用者もいるので、区保険福祉担当関係部署へは定期的に訪問したり、あるいはホームへ直接来られる方もいる。事故やヒヤリハット等には十分注意を行っているが、必要に応じて訪問し相談したりと担当課とは連携をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	教育研修等で学び、身体拘束はもちろん、言葉による行動制限をしない様に努力している。マニュアルは常に確認している。玄関は安全上施錠を行っているが、エレベーター等を使用し、各ユニットへの移動は自由に行っている。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回発足し、身体拘束廃止マニュアルに沿った研修会を年に2回開いている。身体拘束は行っていないが、口調が強くないか利用者の行動制限になっていないか等、職員同士が注意やアドバイスができるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、実践できている。スタッフのストレスが蓄積しないように努めている。入浴や更衣時などにチェックを行い、いち早く異常に気が付けるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を活用されている方はおられないが、職員にも制度の説明を行って理解してもらい、希望時には対応できるように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には面談し十分な説明を行っている。また改定などは運営推進会議で説明し意見を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、家族様の意見を伺えるように、職員全員で日々対応している。運営推進会議の場でも家族様のご要望や意見を聞いており、ご意向に沿えるよう検討している。又、ご意見箱の設置も行っている。	利用者からの意見や要望は、何気ない会話から言い出されることが多く、職員もその様に聞き取る努力をしている。入浴時が一番多い？家族様が来訪された時には、柔らかくに丁寧に対応し、何でも言い易い雰囲気作りを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや連絡ノート、月1回の職員会議を通して、職員の言いやすい環境を作る様心掛けている。	運営に職員意見を反映させることは大切なことであり、毎月1回のユニット会議には管理者も出席し、ケアの相談かたがた職員の意見や要望もよく出るので、それを聞き取っている。又、管理者による個別面談も年2回あり、職員の意見や要望等を聞いている。より上級の介護資格を取得を目指す職員に対してはシフト面で支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、日頃のコミュニケーションを大切に努めている。各個人の勤務形態を把握し、長く働ける勤務状況を作るよう努力し、資格取得についてのアドバイスも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は積極的に参加し、管理者やケアマネが講師となり勉強会を開いて、意欲の向上につなげている。又様々な場面での介護技術を実際に教え合う事を促し、職員全員が同じケアが出来るように指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のケアマネ会議や館長会議での交流はあり、地域のディサービス等のお祭りに参加して情報を交換している。 3ヶ月に1回グループホームの連絡会が行われている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に家族と本人に面談し、意向や要望等のアセスメントを行って安心の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族が困っている事や不安、または要望を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族との面談や職員からの情報を元に、ご本人がどうなりたいのか、家族様がどうなってほしいのかを見極め、必要としている支援を行う。必用時には、リハビリなども勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中での掃除や洗濯、調理など出来る事を見つけ、助け合う関係を職員・入居者様同士でも持てるように努めている。散歩や買い物等外出する機会を持ち、会話などから共感しさらに信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで本人様の状態を伝えたり、相談するようにしている。入居者・家族様・職員が会話を持ち、共に生活している事を感じてもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までご近所付き合いをしていた方が面会に来られたり、手紙の交換などを行って、関係を継続している。季節の花が咲くといつも友人のご近所様が届けて下さる。	利用者については、近隣の方が多く開設当初は近所の友人がお見舞いを兼ねてよく来訪してくれていたが、現在は少し減りつつある。それでも遠方から同窓生や昔の会社仲間OB等が来てくれたりするので、ホーム側も歓迎している。その時は利用者も喜び、一緒に外食に出かけたりしている。葉書きを交換している方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士での席の配置や、レクリエーション行事を通して支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されご逝去された入居者様の家族様に、思い出のアルバムを作成しお渡ししたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で、不満等を含め聞き漏らさず、本人様の意向に添えるよう検討し職員間で話し合い、把握できるよう努めている。	利用者の思いや意向を把握するには、その方の生活歴や生活環境及び趣味・嗜好等を把握する必要があり、職員全員が心がけている。またケアプランには利用者・家族の希望や意向を出来るだけ取り入れるようにしている。フェースシートには必ず職員全員が目を通し、家族からの情報も得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの話を聞いて、安心して今まで通りの生活ができるように努めている。又本人様の好みに合った援助を行い、記録に残す事で経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が様子を観察し気付いた点を話し合い、本人様が今できる力を常に把握しケアプランに生かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族様の意向に添えるようにスタッフ間で実践に向けての意見交換や必要に応じて医師や看護師、訪問マッサージ等に相談し意見を聞きケアプランを作成している。	本人本位のケアプランは、居室担当者を決め、本人の変化等を細かく観察し、担当者会議を開いて話し合っている。家族の意向も把握し、かかりつけ医の意見も参考にしている。モニタリングは毎月行い、その時点で変化があれば、すぐにケアプランの変更・追加を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活面や表情や言葉の意味にも目を向ける様に記録に残している。知り得た情報や、気付いた事があれば会議や申し送り時に話し合いをし情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに添って、家族や職員で話し合っている。訪問マッサージや訪問歯科、訪問理容なども要望や必要性に応じて連絡調整している。個々のケースにおいて可能な限り柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーやコンビニに買い物に出掛けたり、公園に散歩や町内会のお祭りに行ったりと、地域資源を活用し安全安心な暮らしを送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の状態を記録把握し、往診受診時に報告できるようにしている。何かあればクリニックに相談対応している。	かかりつけ医については、本人や家族の希望を優先しているが、利用者の大半は当ホームの協力医療機関をかかりつけ医と決め、月2回の訪問診療を受診している。口腔ケアを兼ねて歯科の訪問診療も週に1回は受診している。看護師も週3回来て各入居者の健康状態をチェックしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週健康チェックを行っている。小さな変化でも看護師に報告し確認、情報を共有している。相談、対応法、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は、ご家族、病院関係者と情報を共有し面談を繰り返します。早期退院に向けて施設での受け入れ態勢を整え、かかりつけ医との連絡相談も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針は入居時に家族様に説明を行っている。心不全や急変を起こしうる入居者様の症状や注意点等医療機関より説明を受け、その時々への対応法を職員間で共有し、家族様にもその都度報告している。ターミナルケアについての勉強会も行っている。	本人や家族の最大の関心事なので、ホームで「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を作成し、契約時に詳しく内容を説明し納得を得ている。ターミナルケアについての職員研修は毎年行っている。かかりつけ医や家族の同意があれば、いつでも看取れる体制をとれる。すでに過去1例経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等を常に確認し予想される症状別の対応法等も把握するよう心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルなどを作成し、定期的に避難訓練をおこなっている。運営推進会議で避難場所の確認も行っている。昨年は自治会の災害訓練に参加し、協力も得ることが出来るようになってい。	地震、火災及び風水害に対しての避難マニュアルは作成されている。年2回(昼間、夜間想定)の避難訓練も実施している。近隣の方の参加はないが、運営推進会議等で、訓練の様子や、地域の避難経路などについて報告している。	大災害はいつ起こるか分からず、職員だけで利用者の避難援助は無理な面もあり、近隣住民の応援は必要である。そのためには、自治会の避難訓練には必ず職員数名参加し、お互いに協力出来る体制作りが望まれる。更に避難生活が長引く場合に備えて、福祉避難所の場所や道筋等確認しておく事も大切である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人1人の性格や生活歴を尊重し接するように対応している。入職時には個人情報やプライバシーの保護についての研修も行っている。	介護保険のキーワード「尊厳」の気持ちは絶えず持ち、呼びかけにも気をつけ、丁寧なケアを心がけている。理念通りのあくまでも利用者中心の生活を心がけていて、何か問題点があれば職員会議等で取り上げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話の中からも、本人様の思いを引き出せるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、個人個人のペースを守りながら、出来るだけ個別の対応ができるようにその日の流れを変えながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの洋服を選んでいただき身だしなみを整えたり、衣類の洗濯は職員と一緒にやっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや片付け、準備できる方には食材を切ってもらなど職員と一緒にやっている。食事レク等で入居者様職員と一緒に昼食作りなども行っている。たとえミキサー食の方であっても、食材や行事食事食で少しでも楽しめるように他の方と同じように見えるよう成形し楽しんで頂いている。	利用者の最大の楽しみでもあり、利用者の状態をよく知る配食業者から、献立つきの食材を入れている。更に利用者の好みの傾向職員が更に調理、盛り付けを行っている。ミキサー食にしても、ソフト食を把握し提供している。評判の良かったおやつ作りや外食もたまには楽しんでる。	入居者の食べ残し等チェックし、更に利用者好みに近づける努力(配食業者との話し合い)や毎日は無理でも、曜日を決めて職員も同じものを食べる機会がもてれば、より楽しい食事になると思えるが……。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量や形態、好みを把握し、提供している。水分摂取量の少ない方には、好みの飲み物を用意したり、ゼリーを作ったりと工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行って、1人1人必要に応じて支援をしている。週に1回は歯科往診を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、周囲に配慮しながら声掛けを行って、トイレでの排泄支援をしている。	早出、遅出、夜勤を問わず職員は各入居者の排泄チェック表には目を通してしている。又、排泄感を感じた時の入居者の癖をよく掴み、それとなくトイレ誘導を行っている。いわゆる入居者の排泄パターンは把握するようにしている。夜間も定期的に声掛けしているが、眠くて起きない入居者もあり、その時は下着や寝具をチェックしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中で体操や散歩で体を動かしたり、水分量や乳製品の摂取にも配慮している。ホットパックでお腹を温めたり、トイレ時に腹圧を掛ける声掛けも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望や気分に応じて配慮しながら、気持ちよく入浴してもらえるように心掛けている。 体調や気分がすぐれない時は、時間を空けたり翌日にしたり、足浴や清拭更衣等を行ったりと臨機応変に対応している。	入浴は原則週3回と決め、時間帯については各入居者の都合を優先している。季節感を感じるために菖蒲湯や柚子湯も楽しんでもらっている。体調が良くない時や拒否が強い方などの時は無理をせず足浴や清拭を行う事もある。入居者が最もリラックスされる時間帯であり、担当職員と楽しい会話を弾ませ、日頃のうっぷんを晴らしや、要望や意見も聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活リズムの中で、状況に応じ休息したり安眠できるよう支援している。就寝時間等は決めることなく本人様のペースで就寝頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々で服用している薬のファイルを作って、目的や副作用・用法・用量の把握を行っている。薬の変更などが多ときは記録を残し、いち早く変化に気付けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での張り合いや喜びは様々で、食事準備や体を動かす事、買い物・散歩と各々に合った支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やスーパーへの買い物、コンビニにおやつや物の買い物に出る、郵便局まで行き手紙を出す等本人の希望に添って支援している。 近隣施設のお祭りや地域の盆踊りなどにも参加し、楽しまれている。	居室に閉じこもったり、食堂でテレビばかり見て退屈される方もおり、気晴らしを兼ねた買い物あるいは祭り見物、近隣の住民との交流のため、外出の支援は大切なことを職員は理解している。季節と天気の良い日はほぼ毎日の様に外出を考えている。理・美容院、外食、墓参等は家族が協力してくれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が自分のお金で買い物がしたい、自分で払い自分で管理したい、という方については少ない金額を持っていたり自己管理して頂いている。事務所で預かり、外出の際に財布をお渡しする方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話は、掛けたり取り次いだり支援し、自己管理できる方は携帯を持参されている。届いた手紙はやり取りできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不快や混乱を招かぬよう配慮し、季節感のある飾り付けで工夫している。 清掃し清潔な状態を維持できるように配慮している。	共用空間(玄関、廊下、リビング兼食堂等)は清潔で季節感を感じる絵や飾り物が貼ってあり、賑やかである。リビング兼食堂も広くて明るく、仲良くなった入居者が話せるコミュニケーションスペースとしてソファが置いてある。大きな時計やカレンダーもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気の合う利用者同士で思い思いに過ごせるようソファを設置している。 自由にフロアーを移動して頂き他者と会話をしたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使っていた家具やベッド等家族と相談しながら、馴染みのあるものを持って来て頂き、居心地よく安心できる空間作りを心掛けている。	居室はそれ程広くはないが、家族の努力で使い慣れた日用品や家具が設置されていて、自宅の延長感を出す工夫が見られる。家族あるいは夫婦の写真もある。趣味の飾り物も置き、四季を感じる様な努力も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は識別できるように、居室・トイレ・風呂等表記している。居室内もクローゼットなどはわかりやすい様に収納の区分けをしている。		